

申請者	中村 忠司
所属	東京経済大学 コミュニケーション学部
調査課題	海外就業体験を中心とした異文化対応力育成教育に関する研究
調査研究の趣旨	海外インターンシップ研修を通じた異文化理解および対応能力を高めるための教育方法の確認とその評価方法の策定を行う。
内容	<p>オンライン研修として以下の3つの研修を実施した。また学生用の教材として2つのテキストを検討した。</p> <p>①オーストラリアのJTB ガイアレックの企画による「オンライン旅行業就業体験」 (2021年8月16日～8月20日)</p> <p>②フィリピンの旅工房による「オンライン語学研修+ホテル就業体験」 (2022年2月7日～2月18日)</p> <p>③フィリピンの近畿日本ツーリストによる「語学研修+異文化理解・SDGs研修」 (2022年3月14日～3月18日)</p> <p>④テキスト1『異文化理解力』 エリン・メイヤー著、田口恵監修・樋口武史訳(2015)</p> <p>⑤テキスト2『海外留学危機管理ハンドブック』 海外留学生安全対策協議会(2020)</p>
成果	<p>総評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までは海外オンライン研修を、あくまでリアルな海外研修の代替的研修として捉えていたが、企業のテレワークやオンライン会議などオンライン化が定着していく中で、本格的に導入する研修として改めて効果を検証していく必要がある。 ・今回は「就業体験5日間」、「語学研修と就業体験10日間」、「語学研修と異文化理解・SDGs研修5日間」の3つのタイプのオンライン研修を行った。短期間の研修の場合、時差の少ない国・地域を選択することで、効率的に研修時間を確保することができる。 ・語学研修では、英語力が高まるだけでなく、現地の文化や歴史を話題にすることで異文化理解が深まる。 ・英語による就業体験や異文化理解がある場合、語学研修を組み合わせることで、英語に耳が慣れ内容の理解力が増す。5日間程度の短い語学研修でも十分に効果が見られる。 ・海外で働いている日本人の体験を聞くことで、自分事として海外で働くことについてのイメージを持たせることができる。体験談は英語ではなく日本語でよい。 ・SDGsなど日本語でも学生にとって理解不足のあるものは、事前に日本語での講義を行わない限り、英語での理解は難しい。研修前の事前学習が不可欠である。 ・課題としては Wi-Fi 環境の不安定さが挙げられる。学生側の問題もあるが、特にフィリピンでは回線が途切れ、タイムラグが発生することが数度起こった。協定校で実施する場合など、お互いにインフラについて確認しておく必要がある。 ・検討した2つのテキストは、授業「グローバルインターンシップ(講義と海外オンライン研修)」を履修している20名の学生に読んでもらい、感想を確認した。『異文化理解力』は日本のようなハイコンテキストの国と欧米豪のようなローコンテキストの国のコミュニケーションの違いを研修の前に学ぶことで、研修中により異文化理解についてスムーズに理解され、有効な教材であることがわかった。また『海外留学危機管理ハンドブック』についても、危機管理の意識醸成のために有効であることが確認された。

個別のオンライン研修について

①JTB ガイアレック(受入先:JTB オーストラリア)「オンライン旅行業就業体験」

<就業体験>

- ・毎日 5 時間の就業体験を JTB オーストラリア(シドニー、ケアンズ)とオンラインで実施した。時差が少ないため、昼休憩を挟んで十分な研修時間が確保できた。
- ・研修内容は新入社員向け研修を日本人学生向けにアレンジして英語で実施するもので、オーストラリアの一般的な企業の規則を学んだ。特にオーストラリアでの働き方(SDGs、多様性など)を学ぶ過程で、日本との違いがよく理解できたとの感想があった。参加学生が、海外と日本の働き方の違いを理解する点で、オーストラリアは違いが明確であり、異文化理解促進の点で評価できる。
- ・旅行会社の在外支店や現地のホテルの業務について日本人スタッフから紹介を受ける。現地で働く日本人の話聞き、質問することで自分が海外で働くことをイメージできたとの感想があった。現地の外国人スタッフではなく、日本人スタッフが対応する場合、学生はより海外で働くことを自分事として実感できる。
- ・旅行日程表の作成ワークでは、プロの目で評価や助言を受けられ、原価と販売価格などビジネスとしての企画の視点を持たせることができた。

②旅工房(受入先:語学学校 CET、SANPLAZA HOTEL)「オンライン語学研修+ホテル就業体験」

<語学研修>

- ・前半は毎日 8 時間(初日はレベルテスト 2 時間)の英語研修を実施した。時差が少ないため、昼休憩を挟んで十分な研修時間が確保できた。
- ・マンツーマンレッスンとグループレッソンの組み合わせで十分な時間を確保し、短期集中で行った。内容は文法に関するものが多く、異文化理解の観点からするとやや物足りないと感じた。

<就業体験>

- ・後半は毎日 2 時間のホテルの外国人スタッフへの英語でのインタビューとホテルの日本人マネージャーによる PBL(課題解決型学習)の研修を実施した。課題は①自分がホテルの支配人になった前提で販促企画を考える。②YouTube を使った PR 企画を考える。
- ・日本人マネージャーがどのような経緯で海外で働くに至ったのかという体験談によって、海外で働くことへのハードルが下がった。海外で働く日本人の体験談は学生の就職に対する考え方に強く影響を与える。

③近畿日本ツーリスト(受入先:エンデラン・カレッジ)「語学研修+異文化理解・SDGs研修」

<語学研修>

- ・毎日 2 時間のマンツーマンレッスンにより、英語力の向上(特にスピーキング)が実感でき、達成感を感じる学生が多い。
- ・マンツーマンレッスンは最後まで担当教員が同じであるため、②の研修(先生が固定ではない)に比べ、日常的な話題のフリートークがうまく進み、学生の満足度は上がる。

<異文化理解・SDGs研修>

- ・毎日 1.5 時間のグループレッソンと学生交流による研修、現地 NGO 団体代表者のセミナーを行った。
- ・SDGsの授業は、英語で行うために内容を難しく感じる学生もいた。日本での事前学習をしたうえで受講するなど送り出し側の配慮が必要と感じた。
- ・現地学生とのオンラインでの交流は、先生と違い、スピードについていけない学生もいたが、同年代の同じ学生と話すことで、文化的な違いを踏まえたコミュニケーションを積極的に取る経験ができた。

成果報告	<p>・2022年3月11日 東京経済大学コミュニケーション学部 FD 研修において報告。</p> <p>・今回の3件のオンライン研修については、大学ホームページ内の以下の学部特設ページで報告。</p> <p>https://note.com/tokecom/n/ndd80e6b38f0a</p> <p>https://note.com/tokecom/n/n2ae95f9a7966</p> <p>https://note.com/tokecom/n/ndaadc84d5e81</p>
別添資料	<p>FD 研修資料パワーポイント(個人の写真を含むため、WEB などでの公開はお控えください)</p> <p>各研修学内共有報告資料</p> <p>各研修学生向け学内説明資料</p>